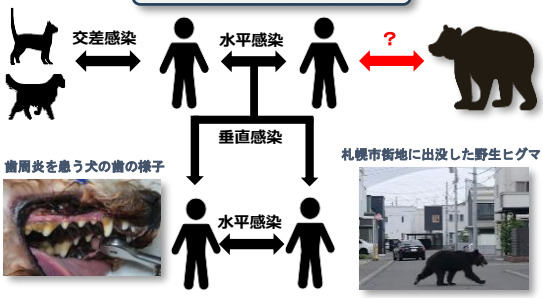
出る杭研究

野生エゾヒグマ(*Ursus arctos lasiotus*)における歯周炎の罹患状況

○三澤 楓，三浦 一輝，日野 貴文，白根 ゆり，片平 浩孝，島津 徳人

研究の背景と目的



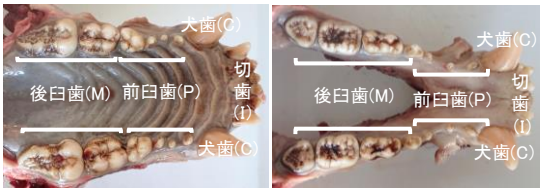
ヒトと野生ヒグマの物理的な距離が縮まったことにより、ヒグマにもヒトの歯周炎原因菌が感染することで、歯周炎が蔓延している可能性が示唆される。本研究では、野生ヒグマの歯周炎の罹患状況を把握することを目的とした。

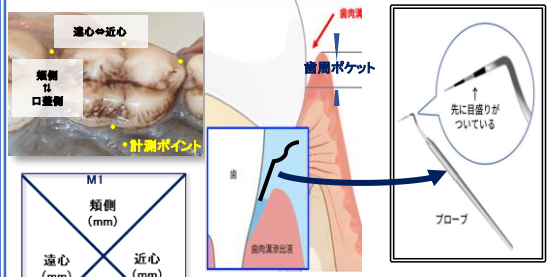
調査対象と方法

歯周ポケット測定でヒグマの歯周炎罹患状況を把握

✓ 2022年度に捕獲されたエゾヒグマ 39頭
（♂33頭,♀6頭）
平均年齢 4.2歳
（max 11, min 0, mean 4）

➢ 捕獲地域 12地域（平取町、江差町、西興部村、七飯町、小樽市、大空町、厚沢部町、伊達市、八雲町、今金町、京極町、函館市、）

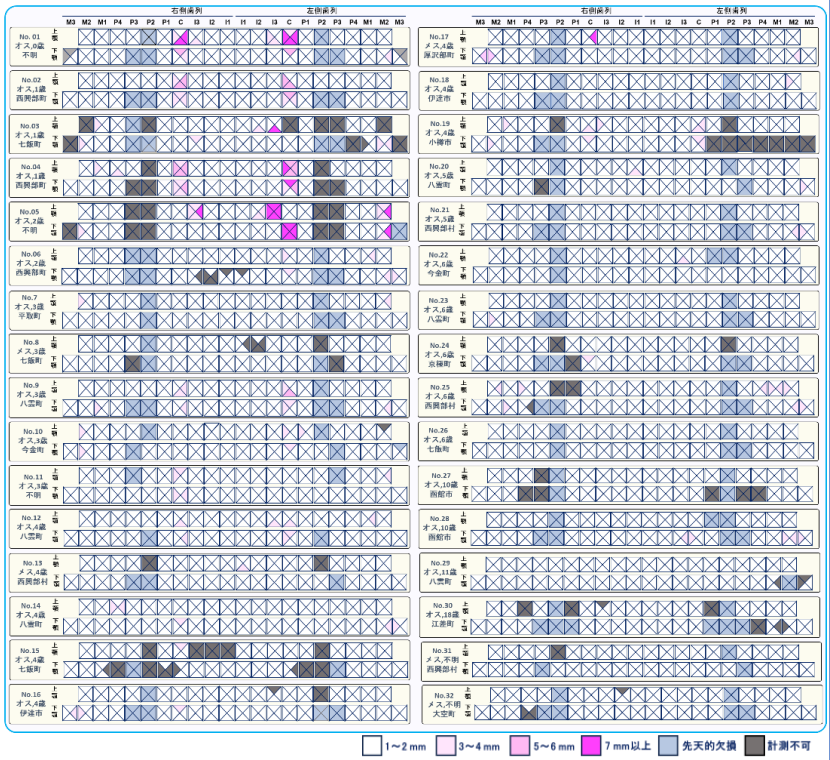




正　常：1～2 mm、軽　度：3～4 mm
中　度：5～6 mm、重　度：7 mm以上

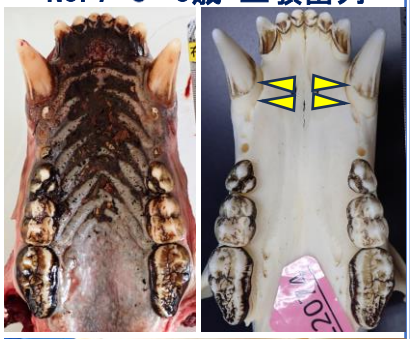
【謝辞】試料収集には、「北海道」と「道総研」の協力を頂きました。試料の収集にご協力いただきました皆様に感謝いたします。

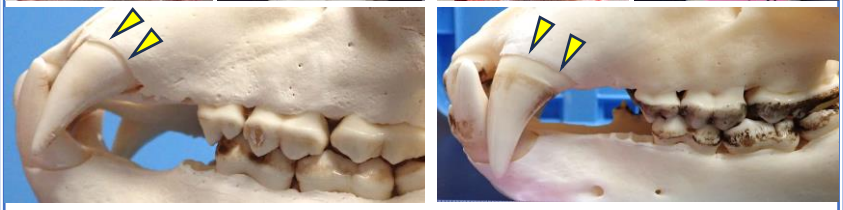
結果と今後



No. 2 ♂ 1歳 上顎歯列

No. 7 ♂ 3歳 上顎歯列





ヒトの歯科臨床で用いられている歯周ポケットの深さ計測の結果から、年齢に関係なく、歯周ポケットが深い箇所は上・下顎ともに犬歯と後臼歯に集中していた。また、若齢個体（1～2歳齢）の犬歯部ポケットは歯周炎によって深くなっているのではなく、萌出途上に起因するものであることが分かった。そして、槽間中隔部に食渣が蓄積していた部分では、歯肉組織を慢性的に圧迫されたことで歯周炎の発症や病態を促進している可能性も示唆された。これらのことから、飼い主とイヌ・ネコとの間だけでなく、ヒトと野生ヒグマとの間でも、歯周炎の交差感染が生じている可能性が考えられる。今後は、歯周ポケットと歯周炎の関連性を調べ、歯周炎原因菌による人獣共通感染症の実態を解明することを目指す。